

令和6年度 第1回磐田市立図書館協議会会議録

- 日時 令和6年7月19日（金） 午後3時から午後4時30分まで
- 場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：鈴木裕之、下村亜由美、佐藤寛子、田中さゆり、竹内恵美子
児玉恵里子、青島公悦、岡實、久永公子、西藤正江（以上敬称略）
事務局等：
山本敏治教育長
中央図書館：伊東直久館長、高杉順也館長補佐、
井上隆志主査、寺田知代主任
福田図書館：太田雄介館長
竜洋図書館：鈴木康之館長
豊岡図書館：伊藤傑夫館長
学校教育課：鈴木公宣指導主事
- 傍聴人 0名

内容 以下のとおり

議事に先立ち、佐藤委員、岡委員へ委嘱状の交付、下村委員へ辞令書の交付が行われた。

議事（1）令和5年度事業報告及び令和6年度主要事業について

令和5年度事業報告について（以下、事務局）

1 図書館資料整備事業

資料の1ページから各館の開館状況や資料の所蔵状況、貸出状況などの実績を記載してある。

（1）各館の開館状況の中の利用者数については、入館者のうち図書などを貸し出した人数になっている。にこっと及びながふじ図書館の6館を合わせて332,971人の利用があった。

（3）の貸出状況は6館で1,167,765点となっている。内訳としては一般書が560,747点、児童書が512,850点と、多くの割合を占めている。コロナの感染が収まってきたことで前年より増加傾向になっている。

（5）予約・リクエスト・レファレンスの「レファレンス」とは「参照」という意味で、情報探しのためのお手伝い、利用者の疑問や相談を解決するための参考となる資料を案内するサービスのこと。4館で1,798件の利用があった。

（6）電子書籍サービスの閲覧数等は10,887件で、令和4年度と比較すると13%の増加となっている。これは、チラシの配布などの周知活動を行ったこと、児童用資料を追加したことなどが増加の要因になっていると思う。電子書籍サービスについては、24時間いつでも利用できることもあり、利用拡大について今後も検討していきたい。

2 図書館施設管理事業

各館の状況に合わせて様々なイベントを開催した。（1）に主な実施事業を記載した。

（2）展示室の利用状況については、中央図書館展示室の利用状況が記載してある。中央図書館の展示室は 市民団体の活動の発表の場として広く利用されおり、46団体、28,654人の利用があった。

3 子ども読書活動推進事業

「第4次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき「おはなし会」を開催した。

(2) 茶の間ひととき読書活動は、昭和41年から開催している事業であり、市内22の小学校50クラスの3年生全員を対象に読書活動を行った。図書館からのおすすめ本3,700冊を貸出し学校と家庭・図書館とで、子どもたちが本に親しむ機会を増やすように努めた。

(3) 読み聞かせボランティア養成講座については通常1回のところ、基礎編・応用編と形式を変え、それぞれ開催した。

4 図書館視覚障害者サービス事業

資料の貸出と対面朗読数は記載のとおり。このサービスは、毎月の「声の図書館だより」や利用者からのリクエストを聞き、音訳協力員に録音図書を作成してもらっているもの。これにより、視覚障害のある方にも読書の機会を提供するよう努めた。資料に記載はないが、音訳ボランティアになるための音訳ボランティア養成講座を5年ぶりに開催し、13名の参加があった。今後も定期的にこういった講座を開催し、協力員の育成に努めていきたい。

・資料7ページ以降に令和5年度の各館が実施したイベントを写真で掲載してある。それぞれの活動状況を比較して見ていただきたい。

議事(2) 令和6年度主要事業概要

磐田市立図書館 令和6年度 主要事業概要について (以下、事務局)

(1) 効果的な情報と魅力の発信

資料5ページからは令和6年度の主要事業としていくつか記載している。その中の新規事業として、中央図書館で「図書館フェスティバル」というものを開催する予定でいる。大きく予算を使ってやるものではなく、今まで実施していた読書講演会、映画会、ワークショップなどを11月30日(土)・12月1日(日)の2日間にまとめて開催してみようという試みになる。今年度初めての事業になるため、新しいことをする、著名人を呼ぶ、などはないが、まずはこういった事業を一つにまとめて試験的に開催してみようと考えている。現段階ではキッチンカーを呼び、賑やかな感じにしたらどうかなど検討している。具体的にプログラムなどが完成したらお知らせしたい。

情報発信強化の点については、図書館事業はホームページなどのSNS、今はLINEにプラスして、各館でインスタグラムにも力を入れている。色々なイベント情報などを発信しているので、まだ登録されていない方はぜひご検討いただきたい。

(2) 施設管理と運営

施設管理については、施設の長寿命化対策など利用者の皆様が安全に安心して利用できる施設の維持管理に努めていきたい。また、導入したICタグシステムの利用促進や市民サービスの向上、事務効率などを進めていきたい。

(3) 図書館資料整備事業

できる限り同じ資料を複数の館で所蔵しない、厳選した資料の収集を行うなどの適正な管理を行っている。また、季節やテーマに応じた特設コーナーを設置するなど、各館において色々と事業を進めている。

電子書籍サービスについては、貴重な地域資料の電子化を進めているところである。また、今年度は、図書館において既に運用している電子図書館を活用し、小学校・中学校との学校連携用電子書籍サービスをスタートしたいと考えている。こちらは、学校側のGIGAスクール構想において、児童生徒に1人1台のタブレット端末が整備されているため、学校での朝読書や調べ学習に活用できるようにと導入を考えている。これについては、夏休みなどの長期休業期間中や感染症、災害発生で学校に行きたくても行けないときなどに、児童生徒が自宅で学習できる環境を整える効果的な事業として導入をしていきたい。

(4) 子ども読書活動推進事業

「磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき継続して実施していきたい。

(5) 図書館視覚障害者サービス事業

点訳・音訳協力員の皆さまの協力を頂きながら、今後も継続して事業を実施していきたい。また、利用されている方と懇談の場を設け、意見を聞きながら事業を進めていきたいと考えている。

〈質疑・意見〉

○資料3ページの茶の間ひととき読書運動について聞きたい。対象となる小学3年生のお子さんを持つご家庭に、茶の間ひととき読書運動とはどのようなものなのか、簡単な経緯でも連絡しているのか。20年前、磐田北小にいたとき周りに聞いても知ってる人がいなかった。茶の間の読書活動を体験したことがあるお母さんもいなかった。これは全国展開した読書運動であり、それが残っているところは少ないので、レクチャーをしてから読書に対する思いや、「読書県静岡」を全く知らない方のために、わかりやすく伝えながら取り組んでもらいたい。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さんお母さんにも伝わるような取り組みを各学校で行っているのか。もしくは各市町、学校に近い図書館が盛り上げていっているのか。何回実施して、これだけ対象者がいて、これだけ配布した、という単なる数字の話ではなく、それだけで特別な思いが育つとは思わないので、その取り組みについて教えていただきたい。

(事務局)

この活動は昭和の中期くらいから始まったもので、学校の現場の方から立ち上がってきた事業であると認識しているが、成り立ちの部分からの事業の概要説明などは少し置き去りにになっているところがあるかと思う。保護者の皆さんに希少性等を示すことなどは図書館だけではできないため、成り立ちの部分などを紹介しながら、学校教育課の担当の先生たちとも協力し、しっかりと進めていきたい。

○資料6ページ電子書籍サービスの推進の項目のところで、小・中学校に電子書籍が導入されるとあるが、これはどういうものか。

(事務局)

現在、学校教育課を通じて、司書リーダーに声をかけるなど、色々と調整をしているところ。

電子書籍については、詳細は決まっていないが、タブレット端末にアイコン的なものを設けて、そこから磐田市の電子書籍に入る形になる。これも検討中だが、読み放題パックというサービスがあり、種類が豊富なため、学校教育課、司書リーダーと協議をしながら、こういったものを購入するかなど、話を進めている。

図書館側は9月か10月頃に運用できればと思っているが、そこは現場サイドの方や学校教育課と調整をしながら周知をしていきたい。

○資料6ページにながふじ図書館の安定的運営とあるが、一般の方たちの利用が少ないのではないかと感じる。学校の施設のため入りづらい雰囲気があり、まだ認知度が低いと思うがどうか。

(事務局)

ながふじ図書館は学校図書館という形になっているが、中に公共部分を設けており、オープン前には学校見学会でたくさんの地域の方に見ていただいた。しかし、これからというタイミングでコロナが流行し、地域の方の足が遠のいてしまったという現状がある。コロナが明けた今、子育て支援センター・地域の交流センターなどにながふじ図書館のチラシを設置するなどして周知を図っている。昨年度は資料8ページにあるように地域の方と一緒にくじびきイベントを行ったり、昼休みに折り紙教室を開催したりした。このように地域の方に来ていただき、子どもたちと何か一緒にやることで、もっと利用が増えるようにしていきたいと考えている。

○資料を見るとレファレンスの数字が断然上がっている。図書館の職員が市民に丁寧に対応された結果だと嬉しく思う。

資料6ページの読み聞かせボランティア養成講座の講師が図書館職員となっているが、応用講座に関してはこづちの会でやっている。受講者の方は大変積極的にメモを取り、その方たちが学校や幼稚園で今後読み聞かせをしてくれると思うので、とてもありがたいと思っている。

(事務局)

応用講座の講師の件は承知しております。基礎講座は図書館職員、応用講座はこづちの会、と資料を修正いたしますので、引き続きよろしく申し上げます。

事務局より

・図書館の直接的な事業ではないが、市の施策で進めているもので2件報告させていただく。

①豊岡支所の移転が決定し、現在建築工事が進んでいる。豊岡支所と豊岡図書館は別棟で、中心で結合する形になっている。図書館は平成15年の建築で築年数が新しいことから移転はしないが、エレベーターやバリアフリーのトイレなど共有部があるため、支所が移転したあと、図書館としてどこを改修するのか、利活用するのかなど検討を進めていくことになる。

②現在、にこっとの2階部分は、ホール・学習コーナー・会議室・和室という状況になっている。ここを文化振興の更なる利活用を伸ばす目的で、2階のフロア全体を展示スペースに改修する計画があり、設計を進めていく動きになっている。設計に関しては、にこっとも関わりながら、文化振興課が主体となって進めていく。現時点では詳細は決まっていないが、近い将来にリフォーム等のリノベーション工事がにこっと2階部分に入ることを報告する。

【連絡事項】

- ・「令和6年度静岡県図書館大会」は11月11日(月)の予定。
- ・次回協議会は日程が決まり次第お知らせする。